

平成30年度 社会教育情報誌

# 「きばっど」 南薩の社会教育



〈H30. 4. 20 県指定文化財：久保観音堂の木造菩薩立像（指宿市）〉

〈H30. 4. 20 県指定文化財：南九州市川辺町中山田のオキチモズク〉

平成31年2月発行

南薩地区社会教育振興会



## 平成30年度 社会教育関係者・団体表彰



### 1 P T A関係

#### 【優良P T A文部科学大臣表彰】

- ・大成小学校P T A(指宿市)

#### 【日本P T A全国協議会表彰】

- ・立神中学校P T A(枕崎市)

#### 【県P T A連合会表彰】

- ・指宿市P T A連合会(指宿市)

#### 【県P T A広報紙コンクール(平成29年度)】

- ・優秀賞 川辺高等学校P T A(南九州市)
- ・佳作 南指宿中学校P T A(指宿市)
- ・佳作 川辺小学校P T A(南九州市)

#### 【県P T A「たのしい子育てコンクール(三行詩)」】

[中学生の部]

- ・佳作 小湊 瑠奈(枕崎市立立神中学校1年)

### 2 公民館関係

#### 【県共生・協働型地域コミュニティづくり推進優良団体表彰】

- ・会長賞 福元区自治会(指宿市)

### 3 社会教育振興会関係

#### 【地区社会教育振興会表彰】

- ・北川 忠武(枕崎市)
- ・今和泉校区公民館(指宿市)
- ・菊永 忠行(南九州市)

### 4 文化財関係

#### 【県文化財功労者表彰】

- ・赤崎 千春(南九州市) ～「知覧の水車カラクリ」の保護～

### 5 子ども会関係

#### 【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・小園 藤生(南さつま市)
- ・松原田子ども会育成会(指宿市)

#### 【県優良少年少女団体表彰】

- ・東本町子ども会(枕崎市)
- ・松原田子ども会(指宿市)
- ・長谷子ども会(南九州市)

#### 【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・板敷子ども会(枕崎市)
- ・山川福元・町区子ども会(指宿市)
- ・大当子ども会(指宿市)
- ・万世校区唐仁原子ども会(南さつま市)
- ・折尾子ども会(南九州市)
- ・吉松 幸夫(枕崎市)
- ・折尾 修司(南九州市)

### 6 読書活動関係

#### 【子どもの読書活動推進優良図書館等県教育委員会表彰】

[子どもの読書活動推進優良図書館]

- ・枕崎市立図書館(枕崎市)

#### 【県図書館大会：優良読書グループ表彰】

- ・のほらS(枕崎市)
- ・あそびうたサークル「ばすてる」(指宿市)

#### 【「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」表彰】

[ポスター原画コンクール]

- ・特選 上村 和叶(枕崎市立桜山小学校3年)
- ・入選 堂原 夏帆(枕崎市立桜山小学校3年)
- ・入選 福元 優(枕崎市立桜山小学校5年)

### 7 少年の主張鹿児島県大会

- ・優良賞 神谷 琳瑚(枕崎市立別府中2年)
- ・優良賞 外菌 莉佳子(指宿市立山川中3年)

### 8 地域が育む「かごしまの教育」県民週間 ポスター原画・標語関係

#### 【ポスター原画】

- ・学校賞 指宿市立利永小学校
- ・学校賞 南九州市立大丸小学校
- ・最優秀賞 東園 琉生(南九州市立大丸小学校6年)
- ・特選 桐木平 璃空(南九州市立大丸小学校1年)
- ・特選 甲斐 美南海(南九州市立宮脇小学校2年)
- ・特選 久保 一粋(指宿市立利永小学校3年)
- ・特選 田中 蒼磨(指宿市立利永小学校4年)
- ・特選 内 結奈(枕崎市立桜山小学校5年)
- ・特選 松菌 昊祐(南九州市立大丸小学校5年)
- ・特選 上村 乃愛(南さつま市立笠沙小学校5年)
- ・特選 籠原 愛珠(枕崎市立桜山中学校2年)
- ・入選 上野 美和(南九州市立浮辺小学校2年)
- ・入選 新留 諒真(南九州市立大丸小学校2年)
- ・入選 東園 理叶(南九州市立大丸小学校3年)
- ・入選 松木田 啓斗(南九州市立勝目小学校4年)
- ・入選 茅野 潤生(南九州市立宮脇小学校5年)
- ・入選 小山 瑠七(南さつま市立笠沙小学校5年)

#### 【標語】

- ・学校賞 南さつま市立川畑小学校
- ・優秀賞 中村 光輝(指宿市立開聞小学校5年)
- ・特選 田代 聖奈(南さつま市立万世小学校1年)
- ・特選 上野 歩夢(南さつま市立川畑小学校2年)
- ・特選 東 花実(指宿市立山川中学校2年)
- ・特選 桑原 日菜子(枕崎市立立神中学校3年)
- ・入選 寺川 彩葉(指宿市立魚見小学校1年)
- ・入選 上舞 暖斗(南さつま市立川畑小学校3年)
- ・入選 大坪 芽生(南九州市立清水小学校4年)

### 9 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

#### 【絵画の部】

- ・最優秀賞 前菌 心琴(指宿市立山川小学校1年)
- ・最優秀賞 田中 蒼磨(指宿市立利永小学校4年)
- ・最優秀賞 桐木平 歩(南九州市立大丸小学校6年)
- ・優秀賞 小川 愛心(指宿市立開聞小学校4年)
- ・優良賞 鶴留 拓海(南九州市立宮脇小学校1年)
- ・優良賞 村山 未桜(指宿市立開聞小学校2年)
- ・優良賞 西元 南行(指宿市立利永小学校4年)
- ・優良賞 入野 健盛(指宿市立開聞中学校1年)

#### 【ポスターの部】

- ・最優秀賞 俵積田 くるみ(枕崎市立別府小学校5年)
- ・優秀賞 笹山 暖太(指宿市立丹波小学校5年)
- ・優良賞 吉嶺 ころろ(枕崎市立桜山小学校6年)
- ・優良賞 豊留 愛彩(枕崎市立枕崎中学校2年)
- ・優良賞 鮫島 初生(枕崎市立枕崎中学校3年)

#### 【標語の部】

- ・最優秀賞 林 絆直(枕崎市立別府中学校1年)
- ・優良賞 中野 遥香(指宿市立今和泉小学校1年)

## 家庭の教育力の向上

### 【地区PTA役員研修会】 平成30年6月26日（火）

サン・フレッシュ枕崎で、PTA連絡協議会理事、代議員、単P役員等170人が参加して研修会が行われました。

まず、研修Ⅰとして、南薩教育事務所の谷山指導主事から本年度の地区PTA連絡協議会の基本方針や、努力点である①会員の資質向上、②PTA組織・運営の強化、③地区「家庭学習60・90運動」の推進、④家庭教育の充実、⑤青少年の地域活動への参加奨励、⑥教育環境・条件の整備について説明がありました。

次に、研修Ⅱとして、NPO法人ネットポリス鹿児島島の理事長の戸高成人氏に「子どもの生活に関する諸問題～ネット型非行～」と題して講演していただきました。戸高氏はまず、保護者をはじめ大人たちのネット社会に関する知識・理解不足、「知らない」ではすまされないネット社会の現状の認識不足について中・高生が使用するスマートフォンのアプリの現状を示してくださいました。その上で、親としては我が子と共にスマートフォンの正しい使い方を一緒に考えながら教えていくことが必要であるということでした。



〈基本方針・努力点の説明〉



〈戸高成人氏の講演〉



〈閉会の挨拶〉

アンケートには、「SNSを含めたネット情報を初めて詳しく知った」「ネットの怖さ等について知らなすぎる自分に気付かされた」「子どもを守るために、もっと親が責任を持たなければならない」「スマートフォンの使い方について子どもともっと話したい」「子どもにも講演を聞かせる機会がほしい」などの感想が数多くありました。

限りなく広がるネット社会にあって、親としてスマートフォンやパソコン等の現状把握に努めたり、親子で使い方を話し合ったりしながら、家族が安心して生活を送ることが望まれます。

### 【地区PTA母親研修会兼人権教育ブロック別研修会】 平成30年10月23日（火）

南さつま市いにしへホールで、それぞれの校種に児童生徒がいる母親210人が参加して開催されました。研修1では、鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系教授の今林俊一氏に「子どもの学習意欲の見方・導き方～子どもは育てられて育つ～」と題して講演していただきました。



〈上村研一会長の挨拶〉

アンケートには、「子どもの学習意欲を高めるには、親の接し方がいかに大切かが分かった」「親の接し方として、褒める、一緒に考える、ご褒美をあげるといいことが分かった」「子どもと接するときに親がもっと余裕を持つことの大切さに気付かされた」「今までの子育てを振り返るいい機会になった」などの感想が数多くありました。また、先生の話をもっと聞きたかったという意見も多く、子育てについてのいろいろな情報を求めている親が多いこともうかがえます。



〈今林俊一氏の講演〉

研修2では、参加者全員が28グループに分かれて、「保護者の声かけ（褒め方・叱り方）や会話による子どもたちへの影響について」をテーマに情報交換を行いました。全グループにほぼ共通していたのが、親として我が子を褒めたり叱ったりする際、幼児・小学生・中学生・高校生の発達段階や性差、個性に応じて、それぞれ工夫した話し方に努めているということでした。しかし、年齢差・性差・性格によって子どもの受け取り方も違うことから、子ども個々に応じた言い方・接し方に難しさを感じているようでした。中でも叱る際、母親が感情的になりがちだということ、年齢が上がるにつれて子どもがふてくされたり怒ったりする度合いが高まることには、戸惑いを感じている様子でした。その他、子どもが家庭で使う乱暴かつ相手を傷つけるような言葉遣いが気になっていることも出ていました。また、親の日々の言動が我が子の言い方や素振りに影響していることに気付き、親として留意しているという方もいました。6人程度ずつのグループでしたが、ほとんどの母親たちが、かねての思いを話せたり他の母親の考えを聞けたりしたことに大変満足した様子でした。



〈グループ協議〉

# 青少年教育の充実

## 【地区子ども会大会及び育成者・指導者研修会】 平成30年9月2日（日）

〈下川床泉会長の挨拶〉



知覧文化会館及び知覧体育館で、南九州市子ども会フェスティバル市子連発足10周年記念大会



〈表彰者〉

地区内の小中高生及び育成者・指導者等373人が参加して開催されました。

まず、他の子ども会活動及び育成者の模範となる功績をたたえ、本年度は、5子ども会

〔板敷(枕)、山川福元・町区(指)、大当(指)、万世校区唐仁原(南さ)、折尾(南九)]と2個人(吉松幸夫氏(枕)、折尾修司氏(南九))が表彰



〈大当〉



〈唐仁原〉



〈折尾〉

次に、西白沢子ども会(枕崎市)、大当子ども会(指宿市)、

万世校区唐仁原子ども会(南さつま市)、折尾子ども会(南九州市)が元気よく活動発表を行いました。

そして子どもたちは、知覧体育館に「ニュースポーツ」「レクリエーション」「プラコップコースター作り」「オリジナル缶バッジ作り」「折り紙体験」「お茶のクイズ」「英語遊び」「バルーンアート」8つのコーナーを設けた



〈ふれあいワクワク広場での様子〉

「ワクワク広場」で、ほぼ全部の活動を体験し満足げでした。



〈菅原文子氏の講演〉

育成者・指導者は、知覧文化会館で、宮城県気仙沼市「すがとよ酒店」の店主である菅原文子氏から「過ぎ去った日々を見つめて」と題した講演を拝聴しました。東日本大震災に遭われた気仙沼市の方々を中心に、復興への力強い決意や人間の優しさに心打たれる講演会と

## 【地区子ども会ジュニア・リーダー研修会】 平成30年10月20日（土）



指宿市において、中・高生のジュニア・リーダー、高校生クラブ会員、子ども会指導者・育成者等28人が参加して開催されました。

橋牟礼川遺跡公園、鰻温泉、時遊館COCCOはしむれで、活動1「KYT」、活動2「ネイチャーゲーム」、活動3「鰻温泉散策」、活動4「西郷どん館見学」、活動5「創作活動(オリビンストラップ)」、活動6「しゃべり場(読書について)」に取り組み、最後に活動の反省をしました。中・高生だけに、主体的な



〈活動2〉



〈活動3〉



〈活動4〉



〈活動5〉



〈活動6〉

## 【地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会】 平成30年12月1日（土）

指宿市総合体育館で、指宿市子ども会大会も兼ねて地区内の子ども会員及び育成会員・指導者等228人が参加して開催されました。

まず、優良少年少女団体として3団体〔東本町子ども会(枕)、松原田子ども会(指)、長谷子ども会(南九)]が、指宿市子ども会七夕コンクールとして21団体が、それぞれ表彰されました。次に、指宿市の重点子ども会である福元区子ども会及び下門子ども会の活動発表がありました。その後、青少年育成推進員の水流範明氏を講師にKYTを中心とした安全教育研修が行われました。そして、青少年育成推進員の方々が講師となり、テント張りや10種類ほどのロープワークといった創作活動が行われ、子どもたちにとっては



〈表彰者〉



〈福元区子ども会〉



〈下門子ども会〉



〈テント張り・ロープワーク〉



## 人権教育の充実

### 【地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会】 平成30年5月8日(火)

南さつま市いにしへホールにおいて、各市教育委員会社会教育・文化財・社会体育の行政担当者等66人が参加して研修会が行われました。全体会の後、行政関係者を対象とした人権教育講演会が開かれました。

人権教育講演会では、県人権同和教育課指導主事の川畑真英氏に、「みんなで進めよう人権教育！みんなで育てよう人権感覚！」と題して講演していただきました。絵図による視覚的錯覚体験をさせる手法で参加者を引き込みながら、「共感」を大切にした人権教育の進め方の講演は行政関係者に大変有意義なものとなりました。



〈川畑真英氏の講演〉



アンケートでは、「内容が分かりやすく、人権について再認識することができ勉強になった」「『私も大切、あなたも大切』には共感が持てた」の感想が多く、中には「人権問題や同和問題について県民の意識が減少している実情には驚いた」という感想もありました。

### 【地区PTA母親研修会兼人権教育ブロック別研修会】 平成30年10月23日(火)



南さつま市ふれあいかせだいにしへホールにおいて、それぞれの校種に児童生徒がいる母親210人が参加して行われました。今回は、鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系教授の今林俊一氏に「子どもの学習意欲の見方・導き方～子どもは育てられて育つ～」という演題で、家庭教育の中で子どもの人権に視点を置いた講演をしていただきました

親として我が子に接する際、子どもが失敗したときの適切な対応、子ども自身に客観的な自己理解を促す対応、子どもの発達を考慮した対応に配慮することが大切であることを教示していただきました。子どもを人権のある一人の人間として扱う親の接し方について具体的な場面を示し、母たちたちの琴線に響く講演となったようです。

参加者からの感想として、「子育てを見直す機会になった」「子どもを褒める大切さが分かった」「子どもと共に親も成長していきたい」「とても勉強になり来て良かった」



〈今林俊一氏の講演〉

## 地域の教育力の向上

### 【地区自治公民館経営研究会】 平成30年8月30日(木)

指宿市ふれあいプラザなのはな館で行われ、各市公民館関係者・社会教育関係者176人が参加しました。



〈瀬戸会長の挨拶〉

まず、南九州市岡村自治会会長の中村宗隆氏と特別養護老人ホーム<sup>すげまつ</sup>副施設長の上村修氏が「一人一人を大切に誰もが安心して暮らせる地域づくり」と題して、地域の状況を共有するための公民館活動での協議の活性化、公民館だよりの作成・全世帯配付、高齢者の徘徊に見られる道に迷った人に対応する地域ぐるみの模擬訓練、健康料理教室等の住民が会える場の設置、学校と連携した小・中学生の地域への活用について、岡村地域の取組を発表していただきました。アンケートには、今後の地域の活性化に向けて大いに参考となるといった意見が多く聞かれました。



〈研究協議の様子〉

その後、鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系准教授の久保田治助氏が「地域課題の解決に向けた公民館活動のこれからについて」と題して講演していただきました。法的解釈による公民館役割の明確化、特徴的な地域づくりを行っている全国各地の紹介等、今後の公民館活動への示唆となりました。



〈久保田治助氏の講演〉



〈会場の様子〉

### 【地区社会教育委員研修会】 平成30年10月5日(金)

枕崎市市民会館で行われ、各市社会教育委員・生涯学習(社会教育)課長・担当者等44人が参加しました。

まず、県社会教育課生涯学習係社会教育主事兼専門員の橋口盛文氏に、「地域学校協働活動に向けて」と題して、これからの地域と学校の協働の在り方について講演していただきました。

次に、「南薩らしい地域学校協働活動の推進～持続可能な連携・協働のために～」をテーマに、昨年同様ワールドカフェ方式によるグループ協議を行いました。



〈瀬戸会長の挨拶〉



〈濱田所長の挨拶〉



〈橋口盛文氏の講演〉



〈ワールドカフェ方式によるグループ協議〉



## 文化財の保存・活用

### 【地区文化財保護審議会委員等研修会】 平成30年5月30日(水)

ミュージアム知覧「フォーラム」において開催され、各市の文化財保護審議会委員，県文化財保護指導委員，各市文化財行政担当者34人が参加し、文化財の保存・活用の充実について研修を行いました。

開会行事後、南さつま市文化財保護審議会の林 眞古刀会長の研究・事例発表「媽祖神と林家」を踏まえ、協議を行いました。航海安全を守る女神として中国で生まれた媽祖像はアジアを中心に広まり、笠沙町の林家に伝わる媽祖像は、航海の目印となる野間岳に安置され航海の安全を祈願したと推測されるようです。その後、午後の現地研修に先立ち、南九州市教委の上田 耕文化財課参事から、知覧城跡や武家屋敷を中心に航空写真も交えながら文化財紹介や保存の在り方について詳しい説明がありました。



〈研究協議〉

〈説明する上田参事〉



〈知覧城跡〉



〈武家屋敷内の様子〉



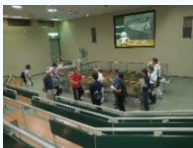
午後からは、園田美雪文化財主事と鮫島えりな文化財研究員から「平成30年度県文化財保護行政の重点施策等」についての講話があり、その後、現地研修に出掛けました。

現地研修では、南九州市文化財保護審議会の厚村善人会長が案内してくださいました。まず、知覧城跡の石碑が建つ場所で昔の知覧城に思いを馳せ、次の知覧麓武家屋敷群では、それぞれの武家屋敷に入り、屋敷の造りや庭を見学しながら、文化財保存の在り方について研修することでした。

### 【地区「指定文化財」巡回視察】 平成30年9月14日(金)

県文化財保護指導委員，各市文化財行政担当者，南薩教育事務所員の13人が参加して、4市輪番の今回は、指宿市の国・県・市指定文化財と国登録有形文化財を視察しました。

時遊館COCOはしむれ(橋牟礼川遺跡の展示)，指宿橋牟礼川遺跡(史跡)，千手観音坐像(有形文化財：彫刻)，掛宿神社の社叢(天然記念物)，能面(有形文化財：工芸品)，久保観音堂の木造菩薩立像(有形文化財：彫刻)，宮ヶ浜港防波堤(有形文化財)，丸十金物百貨店店舗(有形文化財)，丸十金物百貨店蔵(有形文化財)，中俣家住宅主屋(有形文化財)，坂本家住宅主屋(有形文化財)，蜷川菓子店店舗兼主屋(有形文化財)，山川薬園跡及びびりゅうガン(天然記念物・史跡)，山川地頭仮屋石塀(有形文化財)，鹿児島県のソテツ自生地(特別天然記念物)，伏目海岸の池田火砕流堆積物と噴気帯(天然記念物)を視察しました。視察の趣旨である文化財個々の課題についての共同研究を充実させるため、現地で指宿市教委社会教育課の中摩浩太郎参事から説明を受けた後、多くの意見を出し合うようにしました。



〈橋牟礼川遺跡の歴史劇場〉



〈竪穴住居内〉



〈木造菩薩立像〉



〈宮ヶ浜港防波堤〉



〈山川地頭仮屋石塀〉



〈池田火砕流堆積物〉

### 【南薩4市合同企画展「黄金の郷 南薩」】 平成30年10月20日(土)～2019年6月2日(日)



〈テープカットの様子〉

現在、日本で金を採掘している鉱山は鹿児島県内の4か所のみであり、そのうち春日(枕崎市)，岩戸(枕崎市)，赤石(南九州市)の3鉱山が南薩にあります。ところが、南薩の金山は意外に知られていないことから、地元をはじめ多くの方々に南薩に誇りと愛着を感じてもらおうと4市教育委員会の文化・文化財係が協力して初の合同企画展を開きました。合同企画展初日の10月20日にはミュージアム知覧で、4市や鉱山関係者が出席して記念式典が行われました。この合同企画展は4市を巡回しています。



〈ミュージアム知覧：展示の様子〉



①南九州市：ミュージアム知覧(10/20～12/2)

②南さつま市：歴史交流館金峰(12/15～1/31)

③枕崎市：南浜館(2/13～3/24)

④指宿市：時遊館COCOはしむれ(4/13～6/2)



## 子育てのヒントがここに！「まくらざき家庭教育手帳」

よりよい親になりたいと思いつつながらどうすればよいか分からなかったり、一人で子育ての悩みや不安を抱え込んでしまったりする家庭の力になればと、「まくらざき家庭教育手帳～子育ては親育ち～」を作成し、市内の全小・中学校保護者に配付しました。

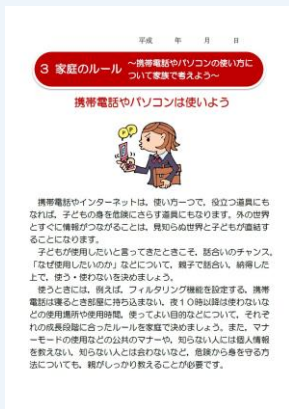
家庭の役割やしつけの極意、体力づくりや体験活動の意義、メディアとの付き合い方や家庭学習のさせ方など、「いつでも家庭教育の情報を得ることができて、学級PTA等でも活用できる家庭教育支援のための冊子」をコンセプトに作成しました。

各家庭で活用するとともに、各学校では、PTA総会等で紹介後、学級PTAや家庭教育学級でも活用しています。また、利用者がパソコンやスマホでいつでもどこでも見ることができるよう、市のホームページ上で閲覧できるようにもしています。

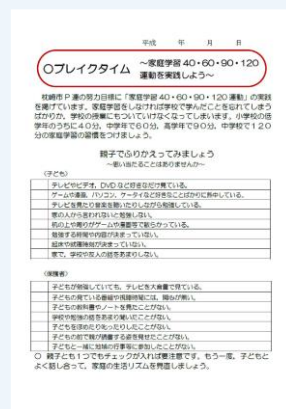
心豊かな青少年の育成は活気ある地域の創生にもつながります。子育ての土台となる家庭教育の充実に向けて、「まくらざき家庭教育手帳」が家庭教育に役立つ情報提供のアイテムとして積極的に活用されるよう、今後も見直しと改訂を行っていく予定です。



〈手帳の表紙〉



〈内容例：家庭のルール〉



〈内容例：家庭学習について〉

## 「あたまイキキ！脳活性音読塾」

枕崎市立図書館では、平成 29 年度から図書館を利用した高齢者の健康づくりを目的に、「あたまイキキ！脳活性音読塾」を実施しています。

音読は、認知症予防や脳機能を発達させる効果があり、また専門知識や技術が無くてもすぐに始められることから、高齢者でも気軽に取り組むことができます。参加者は、声を出してテキストを読むことを基本とし、一人ずつまたはグループごとの輪読や掛け合い、群読など様々な方法で音読を楽しみます。

今年度の塾生は 60 代から 80 代まで 25 名です。音読塾に参加して「友達が増えた」「あと 15 年は生きようと思った」「新聞しか読まなかったけど図書館の本も読んでみようと思う」などと喜びの声や前向きな声が聞かれるようになりました。また、声を出すことが自信につながり読み聞かせボランティアを始めた方もいます。

2年目を迎えた今年度は、11月23日の「ふれあい図書館まつり」の中でその成果を発表しました。ユニフォームもそろえて元気いっぱいの群読を披露してくれました。



〈脳活性音読塾の様子〉

〈ふれあい図書館まつりでの発表会〉



## 指宿市の取組

### 成人式での取組

指宿市では「成人式を契機に、成人としての義務と責任を自覚させ、住みよい社会づくりに貢献しようとする意欲を高める」ことを目的として、毎年1月4日に成人式を開催しています。新成人約30名で組織される成人式実行委員会と共に、新成人の思い出に残る成人式になることを目指して、企画・運営を行っています。

成人式は第1部式典と第2部アトラクションで構成され、第2部アトラクションについては企画から運営までの全てを成人式実行委員会が行っています。今年度は「抽選会」と「再会の集い」を行いました。抽選会では市内の企業・団体から協賛という形で景品を提供していただきました。再会の集いは中学校区ごとに分かれ、思い出のスライドショーや恩師からのビデオレターを見ながら、再会した友人と自由に話ができる場です。企業・団体への依頼や打合せ、恩師への連絡、ビデオレター等の編集はすべて実行委員が自分たちで行います。地元の企業を知る良い機会になるとともに、電話対応や交渉、依頼方法を学びながら社会人としてのマナーを身につけることに繋がっています。実行委員からは「大きなイベントの企画・運営に携わった経験がなく、最初は不安だったが、無事成功し、やり遂げることができたので良かった」「人生の大きな節目の行事に実行委員という立場で携わることができ、貴重な経験ができた。この経験を今後の生活に生かしていきたい」という声が聞かれました。

また、成人式実行委員会は成人式PRの一環として、指宿温泉祭ハンヤ踊りへの参加や、生涯学習フェスティバルでのブース出展なども行っています。地域行事へ積極的に参加し、地域へ貢献する意欲を高めるきっかけとなっています。

今後も成人式が新成人にとって、地域とのつながりの大切さを再確認し、指宿に誇りと愛着を持つきっかけの場となるよう、企画・運営していきたいと考えています。



〈成人式実行委員の協議〉



〈成人式実行委員の皆さん〉



〈ハンヤ踊りへの参加〉

### 「特別企画展『西郷隆盛と海洋国家薩摩-明治維新へ指宿が果たした役割-』

時遊館 COCCO はしむれでは、大河ドラマ『西郷どん』放映と明治維新150周年の関連事業として、特別企画展『西郷隆盛と海洋国家薩摩-明治維新へ指宿が果たした役割-』を開催しました。

特別企画展では、西郷隆盛が島津斉彬に登用されてから西南戦争で没するまでの数奇な運命について、県内外から借用した貴重な資料を展示。この中で、西郷活躍の背景を紐解くと浮かび上がってくる“明治維新へ指宿が果たした役割”に光を当て、海外へ開けた山川港の重要性と、藩の財政を支えた指宿の海商濱崎太平次・河野寛兵衛や、天璋院篤姫等の偉人たちとの関わりについて発信しました。

展示品は、県内外の博物館等から借用し、入れ替えを行いながら、リピーターの確保に努めました。主なものとして、明治7年に西郷隆盛が鰻温泉に1か月ほど逗留した際に、宿主である福村市左衛門に贈った襦袢（下着のシャツ）や、逗留していた西郷の様子を聞き書きした『樺山資紀文書』をはじめ、西郷直筆の書や愛用の筆、敷物、吉田の開拓で用いられたのこぎりや藁草履などです。また、洋式銃や銃弾等の西南戦争関連資料や、海商の濱崎家の系図や屋敷図、河野家当主の古写真等の資料、天璋院篤姫が愛用したと伝えられる手あぶりや島津斉彬の命で作られた白薩摩焼等の工芸品等も展示しました。

特別企画展の開催期間は、平成29年10月14日(土)～平成31年3月17日(日)の約1年6か月で、この間、平成30年1月12日(金)から平成31年1月14日(月・祝)までの約1年間は、当館1階に設置された「大河ドラマ館」と合わせ、「いぶすき西郷どん館」として開催されました。この間の入館者は65,922人であり、市民や県内外の観光客等多くの方々にご覧頂きました。

ひとづくりの事業として、市内の小学5年生から中学2年生を対象とした「ジュニア学芸員講座」を開催。22人の児童生徒が来館者に対して展示案内をしてもてなしました。展示案内を受けた来館者からは評判も上々でした。今回の講座は、児童生徒が楽しみながら学芸員の業務のひとつを研修体験することで、ジュニア学芸員の認定を受け、指宿の歴史・文化に一層の誇りを持つ企画となりました。



〈ジュニア学芸員講座の一場面〉







## 南さつま市の取組

### 「社会教育委員の会・公民館運営審議会」と連携した家庭教育

南さつま市では、「地域の教育力の低下」と「家庭の教育の困難さ」を課題ととらえ、地域・家庭教育の充実に向けて取り組んでいます。平成 28 年度、課題解決のための中核と位置付けた「社会教育委員の会・公民館運営審議会」へ諮問し、平成 28・29 年度の 2 年間の協議を経て「親子で取り組むことができる交流・体験的な活動を取り入れた行事や講座・プログラム等をもっと実施するとよいのではないか。」との提言をいただきました。

この提言を受け、平成 30 年度からは「親子で取り組む交流・体験的な活動への支援について」をテーマに設定し、7月の第1回審議会では「親子で参加しやすい体験活動」、「交流につながる親子での体験活動」について分科会ごとの協議を行いました。

協議で出された意見を受け、11月の第2回審議会では、事務局から「親子で参加しやすい体験活動」事業と「交流につながる親子での体験活動」事業を提案し、企画立案や活動プログラム等について意見をいただきました。これを基に修正し、平成 31 年度の新事業として実施する予定です。

これからの家庭教育の更なる充実のために、今後も「社会教育委員の会・公民館運営審議会」を中核に課題解決に向けて取り組み、感動のある家庭づくりの一助となる事業を展開していきたいと思っております。

#### 〔出された意見〕

- 「このような体験活動だったらできるのでは？」
- ・ 南さつまの海や山等，自然を生かかし，知識も学ぶ体験。
  - ・ 他の地域との連携が深まるような体験。
  - ・ 長時間でなく，短時間での取組。
  - ・ 親子で有意義かつ印象に残る体験。



＜実施予定事業についての協議＞

#### 〔今後の取組として〕

- ・ 親子の思い出に残り，郷土の素晴らしさを体験する企画や活動プログラムに。
- ・ 他団体の行事等と重複しないよう調整する。
- ・ まずはやってみる。その後，工夫改善に努め，よりよい事業へと反映させる。

### かごしま弁のおはなし会～魅力ある図書館を目指して～

平成 29 年，鹿児島県では，県民の方言に関する関心と理解を深め，普及の促進を図るため，11月の第3週を「鹿児島県方言週間」と決めました。そこで，南さつま市立図書館でも，方言に接する機会を与え，関心と理解を深めてもらおうと，本市の読書ボランティアグループにもご協力いただき，平成 29 年度から「かごしま弁のおはなし会」を年 1 回開催しています。

平成 30 年度は，9月 22 日（土），南さつま市立中央図書館で開催し，大人 15 名，子ども 40 名が参加しました。

初めに，パペットうさぎとの綱引きや季節のわらべうたを楽しんだ後，鹿児島弁で大型絵本「とべバツタ」の読み聞かせや地元に伝わる「野間岳と金峰山」のペープサートなどを行いました。鹿児島弁の独特な言い回しに，大人の方々は笑ったり吹き出したりと，とても楽しんでいましたが，子どもたちは聞き慣れない言葉に，言葉と絵を重ねながら想像しているようでした。

最後に，鹿児島弁で「ありがとう」という意味の「あいがとさげもした」を練習したのですが，子どもたちにはとても難しい言葉だったようで，なかなか発音することができませんでした。

このおはなし会をきっかけに，ますます方言に関心と理解を深めていただくとともに，図書館を身近に感じていただけたらと思います。今後も様々なイベントを企画しながら，市民が集い交流できる魅力ある図書館づくりを目指していきます。



＜かごしま弁のおはなし会の様子＞



＜ペープサート「野間岳と金峰山」＞



# 教育伝承カレンダー「ひまわりカレンダー」

南九州市社会教育委員の会議において、平成28年に「帰りたい家庭、行きたい学校、住みたい地域」を合言葉とした「家庭教育支援リーフレット」を作成しました。そして家庭教育を支えていく風土を醸成する目的で、平成29年4月「家庭教育支援条例」を施行しました。

さらに、リーフレット作成や条例施行と並行し、家庭教育支援条例の実効に資するために、各年齢層における子育てに必要な事項をまとめた子育てに役立つ教育伝承カレンダー「ひまわりカレンダー」を作成しました。



この中には「お茶と情けはこいごいと」や「若けうつの難儀は買てでんせ」、「親ん背を見て子は育つ」といった教育伝承が、日めくりでつづられています。今では日常生活において使われることが少なくなってきたこれらの言葉を親子で語り合うことによって、少しでも家庭教育に寄与することができればとの願いが込められています。市内全小学校の長子児童、幼稚園・保育園・中学校・高等学校、地区公民館や自治公民館、市内事業所等へ配布しました。今年度と来年度は、その効果を検証する作業を行い、必要に応じて施策を行っていきます。

加速度的に少子高齢化する中で、本教育伝承カレンダーの活用を通し、地域社会全体で子育てを支援しようとする気運を高め、地域の活性化へとつなげていけるようにします。

# 子ども会フェスティバル ～市子ども会育成連絡協議会主催事業～

毎年9月の第1日曜日に市内の子ども会及び育成者・指導者、行政関係者が一堂に会し、ふれあい活動とおして、市内の子ども会員の親睦を深めるとともに、今後の子ども会活動に活かそうとする心を育てることを目的に「子ども会フェスティバル」を実施しております。

今年度は、南薩地区子ども会大会及び育成者・指導者研修会を兼ねて平成30年9月2日に実施し、南薩地区内の子ども会員・育成者等も参加し、参加者、運営スタッフ合計373人で、日頃の活動に対する表彰や活動発表及びふれあい活動を行うなど、盛大に開催されました。

ふれあい活動として、「子どものあそび場『ふれあいワクワク広場』」での体験活動の場を提供しました。市連役員によるプラカップコースターづくりや市内の2つのジュニア・リーダークラブ（川辺「なべ花火」・穎娃「からいも会」）によるレクリエーション、市連合青年団によるバルーンアート、スポーツ推進委員のニュースポーツ体験、ALT・茶業青年部・穎娃支部による体験活動を伴ったクイズなど、社会教育団体だけでなく社会体育団体など他団体の協力も得ながら実施できました。



〈開会行事の様子〉



〈体験活動の様子〉

枕崎市

いおうざんいわききてらあと  
硫黄山岩崎寺跡

H16.9.2 市指定

創建の年代は明らかではありませんが、一乗院（坊津）の直末寺で真言宗の古い寺でした。山号を硫黄山といい、寺領四石の寺であったといわれます。征西將軍懷良（別名：かねよし）親王の副将日野中納言邦光卿が興国3年(1342)故あってここに流謫（罪によって遠方へ流されること）されましたが、その落胤が篠原家の祖先といわれます。また、文禄3年(1594)坊津に流された左大臣近衛信輔卿（寛永三筆の一人）もこの岩崎寺にたびたび足を運ばれて住持（寺の住職）と語り、鹿籠八景の和歌も残されました。卿が詠まれた鹿籠八景中の次の二首は岩崎寺を歌ったものです。

- ・夕立に 風吹きくれば 深浦の 波に江ならじ ひとむらの鐘
  - ・明けぬれば 人をかえせと 泣くからは われもかえれと 古寺の鐘
- 明治2年廢仏令により廢寺となりました。



指宿市

いぶすきむらかんかいてい き ひ  
指宿邑捍海隄記碑

H30.2.23 市指定

指宿小学校の校庭に建つ「指宿邑捍海隄記碑」は、平成30年2月23日に指宿市指定有形文化財に指定されました。この石碑は、幕末の天保6年（1835）に建立されたもので、国登録有形文化財「宮ヶ浜港防波堤（捍海隄）」が次のような歴史的背景のもと建設されたことが記されています。

「捍海隄の建造当時、宮ヶ浜周辺は浅瀬が多く、船を安全に停泊させるところがないため波風によって転覆することがあった。このような状況を踏まえ、第10代鹿児島藩主 島津斉興が家来に命じて、天保4年12月29日に捍海隄の建造が開始され、天保5年7月13日に完成した。石を敷き詰め、形は三日月のようであり、長さ708尺、高さ18尺、厚さ60尺を測る。そして、島津斉興は五代秀晃に対し、このことについて文章を作ることをお命じになった。斉興は百歩の堤を築き、波風の測り難い危険性に備え、民衆の心配事を防いだ。そして（文章と石碑を残すことで）、後の時代の人にも、この事業の経緯を伝えるのである。」

幕末に造られた防波堤と、その建設の経緯を記した同時代の石碑の両者が近接地に残されているのは稀なことです。また、この「指宿邑捍海隄記碑」は、指宿市の近世史や藩政時代の土木史を知る上でも、大変重要な歴史資料と考えられています。



指宿小学校校庭に建つ「指宿邑捍海隄記碑」

## 南さつま市

# か せ だ す い し ゃ 加世田の水車カラクリ

S 61.3.24 県指定

加世田の水車カラクリは、毎年7月23日に開催される竹田神社夏祭りの代表的な催し物の一つとして披露されています。また、昭和59年には「薩摩の水からくり」として知覧の水車カラクリと併せて国選択無形民俗文化財になっています。からくりは、竹田神社前を流れる益山用水路の水力を利用し、用水路に水車を据え、その上に特設の舞台を設置し、舞台とともに等身大の人形が回転する舞台芸で、人形は毎年題材を変えて作られます。二間四方の広さの舞台に並ぶ人形自体の動きはありませんが、作られる等身大の人形は衣装や武具を着用し、人形の表情や構成により、見る者の想像力を引き出す水車からくりです。からくりの由来については、はっきりとしていません。現在は、竹田神社からくり保存会によって傳承されており、毎年、竹田神社夏祭りの一月ほど前から人形の制作に取りかかり、22日にはからくりを用水路へ据え付け、23日の本番には神社を訪れた多くの人々に披露されています。カラクリ人形の題材は、昔は常磐御前や静御前など女性が多かったようですが、最近では、日新公にっしんこうに關係のある武将なども多くなっています。平成30年は明治維新から150年を迎えた年でしたが、明治維新の源、薩摩の学びに大きな影響を与えた島津日新公忠良ただよし没後450年の節目の年でもありました。日新公を祭る竹田神社の夏祭りに披露される加世田の水車カラクリは、南さつま市の夏の風物詩の一つとして、大切に受け継がれています。



〈水力で回転するカラクリ人形〉



〈ライトアップされたカラクリ人形〉

## 南九州市

# きよみずまがいはつ 清水磨崖仏

S 34.6.10 県指定

南九州市川辺町清水の岩屋公園は、昔から桜の名所として知られ、初夏のホタル、夏の川遊び、秋の紅葉と四季の移り変わりを楽しめる公園で、芝生広場や流水プール、バンガローなどがあり、訪れたことのある方も多いのではないのでしょうか。



〈磨崖仏群〉

この公園の見どころの一つに、清水磨崖仏があります。万之瀬川の右岸の切り立った崖に、平安末期から明治28年までの約700年間にわたり、様々な目的で202基の仏塔・仏像・梵字が彫刻されています。明治初めの磨崖仏毀釈により、すべての寺院が廃寺となった鹿児島県で、それ以前の姿をとどめている貴重な仏教史跡で、ほかの磨崖仏と比べると仏像より五輪塔や宝篋印塔などの仏塔が多いことが特徴です。

清水磨崖仏は、昭和33年(1958年)、当時大学院生だった齋藤彦松氏さいとうひこまつによって価値が認められ、今からちょうど60年前の昭和34年(1959年)に鹿児島県指定文化財の史跡に指定されました。崖に彫られた五輪塔としては日本最大の「大五輪塔」、美術的にも価値が高いとされる「月輪三大梵字」、鎌倉時代の追善供養(死者の供養)の様子を伝える「三大宝篋印塔」が代表的な彫刻です。また明治28年、ここに最後の磨崖仏となる十一面観音像・阿弥陀如来像・宝篋印塔を彫刻した吉田知山は、曾於市大隅町の月野にも十一面観音の磨崖仏を残しています。

平成29年度から発掘調査が行われており、新たに2基の五輪塔が見つかったほか、鎌倉時代のものと推定される火葬人骨、江戸時代の用水路跡など、新たな発見が続いています。

岩屋公園周辺には、「河辺氏居館跡」・「宝光院跡」・「層塔群」などの史跡、「水元神社の薩摩塔」・「宝光院跡の仁王像」などの石造物が数多く残されています。磨崖仏に興味をもたれたら、ぜひ周辺の文化財も見学してみてください。



〈月輪三大梵字〉



〈火葬人骨〉